

ドラッグインフォメーション

2020年6月改訂

販売名	沈降炭酸カルシウム「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社										
局方名	日本薬局方 沈降炭酸カルシウム	発売年月	平成6年3月										
洋名	Precipitated Calcium Carbonate	薬価収載年月	平成5年12月										
一般名	炭酸カルシウム	薬価	10g 9.70	健保適用									
剤形	散剤	日本標準商品分類番号	872344										
規制区分	普通薬 局方	YJコード	2344007X1155										
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2344007X1155	YJコード	2344007X1155										
構造式	分子式: CaCO_3 分子量: 100.09	組成	本剤1g中、日局沈降炭酸カルシウム1gを含む。										
性状	本剤は白色の微細な結晶性の粉末で、におい及び味はない。 水にほとんど溶けないが、二酸化炭素が存在すると溶解性を増す。本剤はエタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。本剤は希酢酸、希塩酸又は希硝酸に泡立って溶ける。												
効能・効果	次の疾患における制酸作用と症状の改善 胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)												
用法・用量	沈降炭酸カルシウムとして、通常成人1日1～3gを3～4回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。												
薬効薬理	炭酸カルシウムは不溶性カルシウム製剤の1種で胃酸を中和し制酸作用を呈し、また吸着作用もあらわすので胃潰瘍及び胃酸過多症に制酸薬として用いる。本品1gは0.1mol/L塩酸約200mLを中和する能力がある。												
使用上の注意	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【禁忌(次の患者には投与しないこと)】 甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症の患者〔甲状腺機能低下症では高カルシウム血症を起こすおそれがあり、副甲状腺機能亢進症では、症状を悪化させるおそれがある。〕</p> </div> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)腎障害のある患者〔カルシウム・リン代謝異常を起こすおそれがある。〕 (2)心機能障害、肺機能障害のある患者〔心機能障害、肺機能障害を悪化させるおそれがある〕 (3)便秘のある患者〔便秘を悪化させるおそれがある〕 (4)高カルシウム血症の患者〔高カルシウム血症を更に悪化させるおそれがある。〕</p> <p>2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること) 本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">薬剤名等</th> <th style="width: 50%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 25%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テトラサイクリン系抗生物質 ニューキノロン系抗菌薬 エチドロン酸二ナトリウム 鉄剤</td> <td>これらの薬剤の吸収を阻害し、効果を減弱させることがある。両剤の服用間隔を2時間以上あけるなど注意すること。</td> <td>これらの薬剤はカルシウムイオンと消化管内で難溶性のキレートを形成し、吸収が阻害されることがある。</td> </tr> <tr> <td>高カルシウム血症改善イオン交換樹脂製剤</td> <td>これらの作用を減弱させるおそれがある。また、併用により全身性アルカローシスがあらわれたとの報告がある。</td> <td>カルシウムイオンがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>				薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	テトラサイクリン系抗生物質 ニューキノロン系抗菌薬 エチドロン酸二ナトリウム 鉄剤	これらの薬剤の吸収を阻害し、効果を減弱させることがある。両剤の服用間隔を2時間以上あけるなど注意すること。	これらの薬剤はカルシウムイオンと消化管内で難溶性のキレートを形成し、吸収が阻害されることがある。	高カルシウム血症改善イオン交換樹脂製剤	これらの作用を減弱させるおそれがある。また、併用により全身性アルカローシスがあらわれたとの報告がある。	カルシウムイオンがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
テトラサイクリン系抗生物質 ニューキノロン系抗菌薬 エチドロン酸二ナトリウム 鉄剤	これらの薬剤の吸収を阻害し、効果を減弱させることがある。両剤の服用間隔を2時間以上あけるなど注意すること。	これらの薬剤はカルシウムイオンと消化管内で難溶性のキレートを形成し、吸収が阻害されることがある。											
高カルシウム血症改善イオン交換樹脂製剤	これらの作用を減弱させるおそれがある。また、併用により全身性アルカローシスがあらわれたとの報告がある。	カルシウムイオンがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。											

使用上の注意	<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活性型ビタミンD₃製剤 ビタミンD</td> <td>高カルシウム血症があらわれるおそれがある。</td> <td>腸管からのカルシウム吸収が増大するため。</td> </tr> <tr> <td>大量の牛乳</td> <td>milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。</td> <td>機序不明。</td> </tr> <tr> <td>ジギタリス製剤</td> <td>ジギタリス製剤の作用を増強し、中毒を起こすおそれがある。 ジギトキシン血中濃度の測定や電解質測定を行うなど、観察を十分に行い、慎重に投与すること。</td> <td>カルシウムは強心配糖体の心筋収縮力を増強する。本剤の投与により血中カルシウム濃度が上昇するとジギタリス中毒が発現しやすくなる可能性がある。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	活性型ビタミンD ₃ 製剤 ビタミンD	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	腸管からのカルシウム吸収が増大するため。	大量の牛乳	milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序不明。	ジギタリス製剤	ジギタリス製剤の作用を増強し、中毒を起こすおそれがある。 ジギトキシン血中濃度の測定や電解質測定を行うなど、観察を十分に行い、慎重に投与すること。	カルシウムは強心配糖体の心筋収縮力を増強する。本剤の投与により血中カルシウム濃度が上昇するとジギタリス中毒が発現しやすくなる可能性がある。
	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子										
	活性型ビタミンD ₃ 製剤 ビタミンD	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	腸管からのカルシウム吸収が増大するため。										
大量の牛乳	milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序不明。											
ジギタリス製剤	ジギタリス製剤の作用を増強し、中毒を起こすおそれがある。 ジギトキシン血中濃度の測定や電解質測定を行うなど、観察を十分に行い、慎重に投与すること。	カルシウムは強心配糖体の心筋収縮力を増強する。本剤の投与により血中カルシウム濃度が上昇するとジギタリス中毒が発現しやすくなる可能性がある。											
<p>3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類\頻度</th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代謝異常^注</td> <td>高カルシウム血症、アルカローシス等の電解質失調</td> </tr> <tr> <td>長期・大量投与</td> <td>腎結石、尿路結石</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>悪心、嘔吐、便秘、下痢、胃酸の反動性分泌等</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>痒痒感</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと</p>	種類\頻度	頻度不明	代謝異常 ^注	高カルシウム血症、アルカローシス等の電解質失調	長期・大量投与	腎結石、尿路結石	消化器	悪心、嘔吐、便秘、下痢、胃酸の反動性分泌等	過敏症	痒痒感			
種類\頻度	頻度不明												
代謝異常 ^注	高カルシウム血症、アルカローシス等の電解質失調												
長期・大量投与	腎結石、尿路結石												
消化器	悪心、嘔吐、便秘、下痢、胃酸の反動性分泌等												
過敏症	痒痒感												
<p>4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。</p>													
備考	貯法 : 気密容器 包装単位 : 500g、1g × 1050、0.67g × 1,050、0.5g × 1,050												
文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10 TEL (03)3381-2004												